



かえで



編集 社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東陽4-8-10 202号室 TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

23年目を迎えて

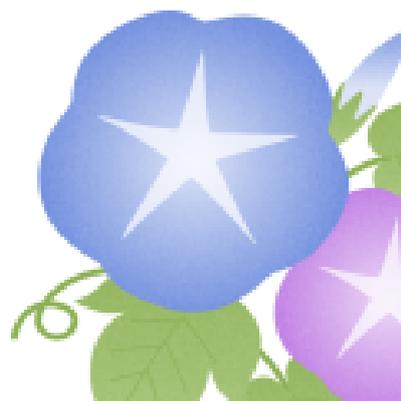
社会福祉法人江東楓の会 理事長 伊藤 善彦

日頃より当法人運営にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。皆様よりお力添えをいただき23年目を迎えることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

「障害のある人一人ひとりの人権と意思を尊重し、様々な場面での自己選択を大切にします」

この理念を法人の設立当初の思いとして現在に至っております。私自身は障害者福祉の現場に入り30年が経ちました。利用者のために何ができるか？何か楽しい経験を一緒にできないか、という思いで現在に至ります。もちろん悲しい場面に立ち会うこともありましたが、そこから利用者が前を向いていけるように支援に取り組んできたと思います。

法律や制度はどんどん変わっていきますが、すべての方への感謝を忘れずに、引き続き江東楓の会の理念の実現に向け職員一同取り組んでまいります。



「みんなでみんなを」

江東区あすなろ作業所 支援員 佐藤 充宏

あすなろ作業所は今年度新しい利用者の方を2名お迎えしました。支援のやり方について手探りで進めていく事に困難さを感じる一方で、先輩の利用者の方が昼休みに遊びに誘ってくださったり、作業中に声を掛けてくださったりと、いろいろな場面で気に掛けてくださっている姿を目にすると、その姿勢に頼もしさを感じます。しかし、同じ役割を今の私が担えているか不安を感じる時があります。

職員体制の方に目を向けると、新任や異動、産休から復帰する職員が4名、一緒に働く仲間に加わってくれました。メンバーが増えた事に対しての嬉しさがある反面、日常業務や利用者支援の引継ぎが十分に出来ていないのでは？学生から社会人に立場が変わったり、働く場所が変わったりする事の精神的なストレスに寄り添えていないのでは？等々、先輩として求められるものを理解しつつも、それを示すことが出来ているのか、日々葛藤しながら勤務しているのが現状です。それでも日々のケース会議にて職員全員で確認を行う事で、引継ぎ事項の抜けた部分等を埋める事が少しずつ出来ているのではないかと感じており、一緒に働いてくれている職員に日々感謝をしています。

楓の会の支援の方針のなかに「みんなでみんなを」というものがありますが、これは利用者支援に限った事ではなく、一緒に働く職員が悩みや困り事を抱えている際にはみんなでサポートしていこうという意味もあると思います。この考え方を基本として引継ぎや教育を行う事で事業所全体の業務の水準を上げていきたいと思います。

「生活面でのサポートに」

江東区リバーハウス東砂 支援員 中島 清美

新年度が始まり3ヶ月が過ぎました。新たに入所された方、新しい仲間や職員を迎えた方など様々な変化の中で新年度を迎えた方も多いのではないのでしょうか。私自身も4月にリバーハウス東砂に異動してきて、新たな場所で新年度がスタートしました。

昨年度まで作業所で主に作業を中心とした日中活動のサポートを行っていましたが、リバーハウスでは、食事や入浴などの生活面でのサポートと今までとは全く違う環境になりました。また、私自身生活支援の経験がなく、自分にできるのだろうかと不安を抱えていました。生活面での支援といっても、一人一人どのようなサポートが必要なのか覚えることが沢山ありますが、一つ一つ丁寧に先輩職員が教えてくれ、少しずつですが、利用者の方たちのサポートができるようになりました。

現在も先輩職員に様々なことを教わりながら、グループホームやショートステイを利用されている方に不安なく過ごしていただけるよう、日々利用者の方との関わりを大切にしています。

利用された方が「リバーハウスを利用して良かった」と思っていただけけるよう、がんばっていきたいと思います。

「改めて知ること、関わること」

江東区亀戸福祉園 支援係長 伊藤 隆行

亀戸福祉園では職員の入職異動等や、新利用者の入園があり新しいメンバーでの新年度がスタートしました。

今年度は自己選択、利用者主体が法人全体としてのテーマとなっており、亀戸福祉園でも重点課題としています。利用者支援について、気づきにつながるような研修を毎月行いながら利用者一人ひとりを改めて知ること、関わることを意識できるようにしています。現在、各グループで「利用者を知ろう週間」を実施し2週間ずつ特に意識して見ていく利用者を決めながら関わり、活動や行事等で本人の思いや意思を汲み取れるよう職員と一緒に考えながら進めています。

6月7日(土)には節目となる第20回のかめ亀カーニバル(園祭)を開催しました。今回は初めて利用者の実行委員会を結成し、園祭で行いたい事について話し合いを重ねました。新しい試みとして開会式で職員と一緒にテープカット時の演奏を行うことや江東区の観光キャラクターコトミちゃんを招待するなど、利用者と一緒にアイデアを出しながら園祭が開催できました。

利用者の方々と関わる機会を大切にしながら、今後も利用者主体、自己選択を意識し、楽しんで過ごせる時間が増えるようにしていきたいと思えます。

今年度も亀戸福祉園をよろしくお願い致します。

「サンフェス、ありがとうございました！」

第三あすなろ作業所 支援員 辰巳 普

新しい利用者や職員が加わり、昨年度とはまた違った空気感で第三あすなろ作業所の新年度はスタートしました。

私は第三で5度目の春を迎えました。新卒で入職して以来、積み上げてきた経験値と利用者支援において発生する様々な出来事に対峙した時の新鮮な気持ち、そのどちらも大切にしながら今後も業務に当たりたいと思っています。

新年度始めの2か月間は、5月31日(土)開催のサン3フェスティバルに向けて事業所全体で走り抜けてきました。コロナ明け後の本格開催3年目ということで、過去2年の反省も踏まえつつ、今年度最初にして最大のイベントへの準備を進めました。「このままで大丈夫かな」「ここが滞っていないかな」と不安になる場面が多々ありながらも、職員間での意見交換やフォローし合う甲斐もあり、当日が近づいてくるにつれて「なんとかなりそう」と思えるようになっていました。

あいにくの悪天候でしたが、無事にサン3フェスティバルを開催することが出来ました。私自身はサンフェスで培った行事企画、運営のノウハウを続々と予定されているこれからの機会に還元していけたらと思っています。

多くの皆さまにご協力をいただきました。ありがとうございました！

「暑い夏を乗り切った先に」

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 武田 俊彦

過ごしやすい春から、暑さの厳しい夏へと移り行く季節となり、新年度の活動も定着してきたように感じる今日この頃です。そんな私たちに新年度らしい雰囲気を感じてくださるのが、新規の利用者です。

これまでの会報誌でも書かせていただいていた通り、現在、新規の依頼をなかなか受けられない状況が続いているのですが、それでも何とかシフトの隙間にマッチングできた数名の方と契約し、支援をスタートさせることができました。

利用者ヘルパー、保護者と事業所、必要なやりとりを経たうえでのスタートとなりますが、完全に不安や心配を払拭できるわけでもなく、お互い手探りをしながら、実際の支援を進めていきます。まだ落ち着いたとは言えませんが、いまのところ大きな問題なく、支援が継続できていると感じます。飛行機でいうと離陸は成功したというところでしょうか。

とはいえ、まだまだこれからです。利用者ヘルパーで暑い夏を乗り切ったとき、不安が信頼に変わっているといいですね。頑張りたいと思います。

「ささいな変化はたくさんあり」

若竹作業所 支援員 石井 梨乃

新しい年度になり環境も変わり「何か新しいことを」と思っていたのですが、生活の流れに何かを加えること・減らすことは難しく、変わらない日々を過ごしています。ですが、日常のささいな変化はたくさんあり、朝の起きる時間や出発時間、下車する駅が変わるとそれに伴って乗る電車の号車も変わってきます。流れに身を任せながらも、出来事を振り返って反省したり、時には立ち止まって深呼吸したりを繰り返しながら、慣れない時間軸や情景に何とか追いつこうと奮闘しています。

若竹作業所にきて約3か月が経過し、利用者の皆さんに名前を呼んでいただく回数が増えたように感じます。利用者みなさんに作業の納期を説明して、何とか間に合うように協力していただいたり、スムーズに業務が遂行できるよう本館・分室で連携を取り合ったりと、交換研修等では可視化しきれなかった事業所の工夫を目の当たりにする場面が多くあり、その日その日が新鮮で吸収するものばかりで溢れています。

新しい場所で得られる刺激を習得しながらも、自分が培ってきた経験や知識を活かしながら真摯に向き合っていきたいと感じています。

「煎餅作業のすごさ」

ワークセンターつばさ 支援員 荒木 智帆

新年度を迎え、新卒で楓の会に入職して3年目になりました。今年度は、受注作業中心だったこれまでとは異なり、自主生産の担当にもなり、煎餅作業に入ることが多くなりました。これまでも単発で煎餅作業に携わることは何度かありましたが、連日煎餅作業に入ると、利用者さんの技術の高さを改めて感じ、煎餅室という暑い環境の中でも高いモチベーションを保ちながら取り組む、職人のような姿に感動を覚えています。

煎餅の納品や販売会などで所外の方と関わる機会も増え、つばさや、つばさの利用者さんと関わりを持ってくださる方が思っているよりもたくさんいることに気づかされます。一方で、煎餅作業に入り、改めて利用者さんのすごさを感じているからこそ「もっとたくさんの方にそのことを知ってもらいたい」「もっと利用者さんが活躍できる場を広げていきたい」とも感じます。

また、販売会の打ち合わせなどで企業の方とお話することも増えました。私自身そのような経験が乏しいので毎回緊張していますが、とても新鮮で、良い経験をさせてもらっているなど感じています。

今年度は煎餅作業、受注作業を通して、利用者さんがつばさや地域で活躍する場をたくさん作っていくことを目指すとともに、そのために自分自身も新たな経験を積んで成長していけたらと思います。

「梅雨と猛暑、衣替えなど大変な時季です」

共同生活援助かえで 管理者 仲俣 圭

ちょっと前まで「早く暖かくなならないかなあ・・・」と思う日が続いていたのに、ここ数日で急に夏日・真夏日・猛暑・酷暑という日が続いています。梅雨入りしたはずが、梅雨っぽくなく、そうかと思えば豪雨になって・・・。ただでさえ季節の変わり目は体調を崩しがちですので、皆さましっかりと体調管理していきましょう。

さてグループホームは生活の場です。なので、日常生活のいろいろな場面で気を付けていくことがあります。この時期ですと、衣服や寝具類の衣替えやエアコン等の室温管理です。季節や気候に応じた服装に変えることは、意外と難しく、いつまでたっても冬用のスウェットを寝間着にしていたり、もこもこの毛布を使っていたり、また気づくと何故か暖房をつけていたり・・・。「その格好で暑くないの？」と利用者に聞いても「大丈夫！」と額に汗を浮かべて返事をしている事もよくあります。自分自身の体を外的環境の変化にあわせて体を快適な状態にしていくことは、生活していく上でとても大切なことのひとつです。しかしいざ実生活でどの様にしていくかとなると難しく、場面場面で丁寧に話をしていく他ありません。日頃利用者と関わっているスタッフの尽力には頭が下がる思いです。

年度が変わりあっという間に3か月が過ぎ、月めくりカレンダーは残り半分になってしまいました。グループホームであわただしくも賑やかな日々が過ごせるのも、多くの皆さまのご理解ご協力のおかげです。本当にありがとうございます。この調子で何事もなく夏を乗り越えたいと思います。

「真夏の塩浜ジャンボリー」

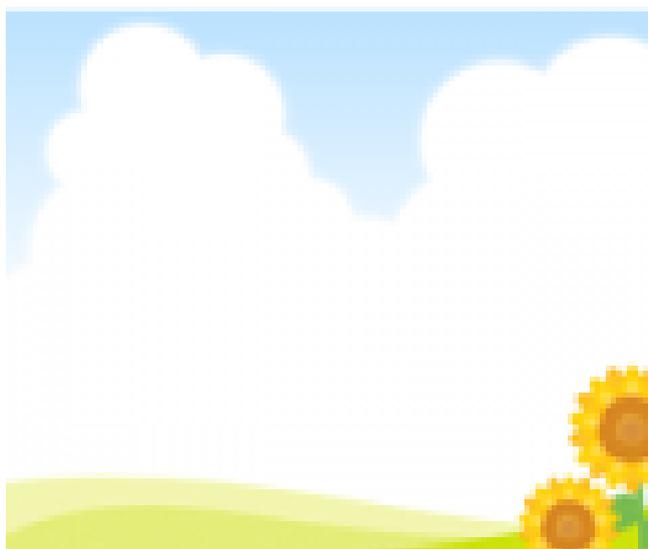
高齢障害者通所施設さくら 看護師 神内 梓

新年度になり各事業所で入所式が行われる中、さくらは職員も利用者も同じ顔ぶれで4月はスタートしました。「新しい人、誰か来ないかなあ」と皆で話していたところ、なんと久しぶりに実習生がみえました！ニコニコと笑顔が素敵で、実習を終えると入所を希望してくださいました。実に2年ぶりに新メンバーを迎えることになり、利用者さんからも職員からも歓声が上がっています。

また、今年はコロナ禍以来、実に6年ぶりに塩浜福祉プラザまつりの開催が決定しました！テーマは「真夏の塩浜ジャンボリー」(*^▽^*) ‘ジャンボリー’とは大勢の人々が集まる楽しいイベントのことだそうです。

さくらでは、去年の障害者作品展に出品したスマートボールなどを使ってゲームコーナーや自主生産品の販売を行う予定です。「子どもが遊ぶなら、あまり高い値段じゃない方がいいね」「景品は甘いのもしょっぱいのもあって選べる方がいいんじゃない？」「スマートボール以外のゲームも用意した方が色々楽しめると思うよ」など、早くも利用者さんからアイデアが続々と上がってきています。その意見も取り入れていき、当日は来場者の方が楽しめるように準備をしていきます!!

8月23日(土)の塩浜福祉プラザまつりに是非いらしてくださいね！



編集後記

4月から3ヶ月、今年は梅雨入りが遅いなど思っていたら、一時は真夏のような晴れ間の日々、そうこうしていたら梅雨明けもしていないのに台風がやってきて…と、なんとも目まぐるしく季節が移り変わる日々です。日々刻々と変わる空の下、事業所ごと、各々の生活、活動、作業など、日常の風景は変わらずにあります。すぐそこまで来ている今年の夏、皆様どうかお身体を大事にして暑い時季をやり過ごしてください。

楓の会 令和6年度決算報告

楓の会の理事会・評議員会が開催され、令和6年度決算が承認されました。

貸借対照表

単位:千円

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	339,446	流動負債	250,681
基本財産	10,000	固定負債	59,441
その他の固定資産	161,481		
		負債の部合計	310,122
		純資産の部	金額
		基本金	20,500
		国庫補助金特別積立金	3,108
		その他の積立金	94,890
		次期繰越活動収支差額	82,307
		純資産の部合計	200,805
資産の部合計	510,927	負債及び純資産の部合計	510,927

資金収支計算書

単位:千円

事業活動収入	982,104
事業活動支出	940,373
差引事業活動収支差額	41,731
施設整備等収入	660
施設整備等支出	785
差引施設整備等収支差額	△ 125
その他の活動収入	24,216
その他の活動支出	39,405
差引その他の活動収支差額	△ 15,189
当期収支差額	26,417
前期末資金支払残高	95,672
当期末資金支払残高	122,089

事業活動計算書

単位:千円

サービス活動収益	972,021
サービス活動費用	942,122
差引サービス活動収支差額	29,899
サービス活動外収益	10,082
サービス活動外費用	6,956
差引サービス活動外収支差額	3,126
特別増減収益	660
特別増減費用	660
差引特別増減収支差額	0
当期活動収支差額	33,024
前期繰越活動収支差額	61,282
その他の積立金取崩額	22,000
その他の積立金積立額	34,000
次期繰越活動収支差額	82,306

※なお千円以下記載省略のため差異あり

第 20 期楓の会後援会収支報告

下記のとおり第 20 期楓の会後援会の収支報告を致しました。

収入の部		
前期繰越	48,760	
後援会会費	576,000	
寄付	0	
受取利息	166	624,926

支出の部		
会報用紙代	6,336	
振込手数料	4,880	
郵送代	14,298	
消耗品(袋)代	2,100	
総会飲食代	0	27,614

収支差額		597,312
------	--	---------

これを次のように精算します。

楓の会への寄付金	500,000
次期繰越金	97,312

令和 7 年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第57号からつづく)

井口 智也 井口 晴美

(敬称略、順不同)

(なお、令和 7 年 6 月 18 日以降 賛助会員は次号につづく)